

令和7年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
77	川崎市立宮前平小学校	後藤 香織

学校教育目標	今年度の重点目標
<p>「今日も楽しく 明日が待たれる学校に」</p> <p>あふれるあふれるみんなの笑顔 つながるつながるみんなの心 かがやくかがやくみんなの未来</p> <p>楽しく学び合う子 ひびき合い高め合う子 進んで挑戦する子</p>	<p>①特色ある学校づくり</p> <p>②豊かな心・健康な体の育成</p> <p>③確かな学力の育成</p> <p>④地域に開かれた学校</p>

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1 ①特色ある学校づくり	「宮前平スタンダード」をもとに、児童にわかりやすく、安全で安心できる環境づくりに努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・スタンダードをもとに、みんなのやくそくや生活目標を定期的に確認しながら、児童への指導にあたった。学校評価アンケートでは「やくそくを守った」と感じている児童が多数いるが、登下校時刻を守ることや安全な歩行については、引き続き指導が必要である。 ・安全安心に学ぶ環境づくりとして、防犯対策を徹底した。大勢が来校する際は正門に職員が立ち、IDチェックを徹底するとともに、児童の昇降口は必要時以外は閉める運用とした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなのやくそくの確認・見直しを図り、全職員が共通理解して同じように指導できるようにする。 ・今年度ははじめた登下校指導を、さらに実施回数や方法を吟味して定期的に行っていく。 ・時刻を守ることについて、職員の意識を高めるとともに指導を強化していく。登校時刻や歩行マナーについては、保護者に周知を図り、理解・協力を求めていく。
	縦割り活動や児童会活動を通して、人との関わりを深めながら、自己肯定感を高め、自治能力を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育全体の中で、自分や相手の思いを大切にできるよう意識してきた。人との関わりを深める活動、特に縦割り班活動や委員会・クラブ活動を通して異学年との交流に重きを置き、他者を思いやる気持ちとともに自己肯定感に高まりがみられるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が人との関わりをもち、主体的に活動できる環境づくりを引き続き意識していく。様々な活動の計画段階から、学校という枠の中で児童に任せる部分と指導する部分を全職員で共通認識しながら支援し、他者を思いやる気持ちと自治能力の育成を目指す。
	道徳やキャリア在り方生き方教育、共生*共育の実践等を通じて、自己や他者を尊重する「心の教育」を進める。	<ul style="list-style-type: none"> ・共生*共育プログラムの研究協力校として、効果測定の読み取りやエクササイズへの取り組み、キャリア在り方生き方ノート、キャリアパスポートの活用を学校内で共通認識して実践した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア在り方生き方教育、共生*共育プログラムなどの系統性の整理や改善、内容の充実を検討していく。児童が他者と関わることにより、ありのままの自分が出ででき、それを受け入れてくれる環境、認め合える関係づくりを今後も職員で意識して、指導・支援にあたる。
2 ②豊かな心・健康な体の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・支援教育コーディネーターを中心とした、ひとりひとりを大切に児童支援体制の構築をはかる。 ・いじめや不登校の未然防止、早期発見・早期対応に努め、「学校生活アンケート」の実施や面談を有効に活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童支援部会や職員会議を中心に、細やかに児童の状況を共有し対応した。担任一人で抱え込むことのないように、Co.や養護教諭、管理職と連携をとりながら、チームとして進めた。 ・共生*共育プログラムの効果測定や学校生活アンケートの活用により、確実に児童の状況を把握するよう努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「いじめ防止基本方針」の内容を全職員が意識して指導できるよう、年度当初だけでなく折に触れて確認し、徹底していく。 ・登校不安の対応としての相談室の活用のしかたについて全職員で確認する。 ・引き続き、きめ細やかに児童の様子を見守り、いじめや不登校の未然防止、早期発見・早期対応に努める。
	保健指導、食育、きらきらタイムや休み時間の外遊び等を通して、児童の体力向上や健康を育む。	<ul style="list-style-type: none"> ・養護教諭による生命の安全教育、栄養士と担任による「食育」の協力指導を実施した。専門職による指導は子どもたちにわかりやすく、心に響いたと感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生命の安全教育および食育の指導計画を作成し、計画的に実施できるようにする。また、授業参観等で保護者に公開し、家庭での話題提供ができるようにしていく。
	防災教育、安全指導の充実を図り、危機管理体制を強化する。	<ul style="list-style-type: none"> ・防災・防犯教育、避難訓練、防犯訓練、引き取り訓練等の計画的に実施した。年間を通じて内容や方法を変えながら複数回実施し、児童の安全意識が高まってきた。 ・個人情報保護、情報リテラシー・情報モラルについて、事例をもとにその都度学習した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が訓練すること、職員が研修すべきことを整理し、自然災害における安全対策や、実効性のある防犯対策の幅を広げる。 ・情報リテラシー・情報モラル教育の指導計画を作成する。計画的な指導とともに、実際の事例やニュースをもとに学習し、実の場に対応する力を養う。
3 ③確かな学力の育成	学習目標の明確化と授業展開の工夫、指導と評価の一体化による授業改善を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領で示されている「主体的・対話的で深い学び」となる授業を目指し、日々の教材研究を大切にし、授業改善に取り組んだ。指導と評価の一体化やPDCAサイクルを意識した改善が課題である。 ・GIGA端末については、学年に応じて活用している。今後は、持ち帰りを含めて有効な学習手段となるよう活用の幅を広げる 	<ul style="list-style-type: none"> ・落ち着いた雰囲気の中で学習できるように、学習ルールや環境づくりを大切にする。 ・「子どもたちにつけたい力」を職員が共通理解し、その実現に向けて教育活動全体で取り組んでいく。 ・保護者の要望を踏まえて宿題のあり方を検討し、テスト・ドリル・GIGA端末の有効活用について考える。

3		校内研究や研修を通して、教員の資質・指導力の向上を図り、主体的に学ぶ児童の育成を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・年7回の校内研究授業の実施し、子どもたち同士がかかわり合い、高め合いながら、主体的な「思考・判断・表現」を行い、それを振り返るような学び方を模索した。 ・総括教諭によるミニ研修を立ち上げた。ニーズに応じた短時間の研修は、すぐに役立ち効果的であった。 ・経験者研修ではメンター・メンティーとしてペアを組み、年間を通して支えあう仕組みを取り入れた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の研修体制を軸にしなが、より幅広く職員の資質向上につながる内容を研修していく。校外での研修にも積極的に参加できるよう、体制を整えていく。 ・学校は教えてもらうところから「自分たちで学ぶところへ」を合言葉に、主体的な学びにつながる思考・判断・表現力を身につけさせるための更なる研究・研修の充実を図る。
		<ul style="list-style-type: none"> ・学年の協力授業や個別支援により、基礎・基本の定着を図る。 ・専科、TT、を充実させ、教員の情報共有や協力体制の強化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・専科教員やチームティーチングを充実させ、教員間の協力体制の強化をはかり、学年の児童を学年の教員全員でみていくという意識で支援した。様々な教員が関わることで、子どもたちのいろいろな面や個性を共有し、良いところを伸ばしていくことが可能となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容の定着のために、学年内教科担任(交換授業)の実施、支援が必要な児童への支援体制の強化、専科教員の学年所属を進めていく。
4	④地域に開かれた学校	学校公開、情報発信、学校評価を実施し、改善に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・9月から学校だより、学年だよりの内容を整理した。学校だよりには全校に関わる行事やお知らせを記載して情報を一本化するとともに、下校時刻を知らせることができた。 ・学校評価への協力について周知を強化したことにより、回答率が80%を超えた。(前年比1.5倍) 学校からの発信を強化していくことが、保護者の理解・協力を得ることにつながると感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ペーパーレス化に伴う配信メールや学校ホームページのあり方や運用について検討する。 ・授業参観や懇談会など直接保護者に来校していただく機会を大切にする。「めざす子ども像」や「めざす学校像」を共有し、連携・協働していく。
		地域の教育力活用、保護者や地域との協力・連携を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・2年生のまちたんけん等、直接地域の方から学ぶ機会をつくり学習を進めてきた。 ・学校司書を軸として、読み聞かせボランティア等の協力により、読み聞かせや読書の時間の充実を図ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な学習で外部講師の授業や地域協力者による体験学習を取り入れる。学習に広がりをもたせ、児童の主体的な学びの実現を目指す。 ・地域素材や地域人材を活かすために、時間的な余裕をもって単元計画を進めていく。また、協力者に学習のねらいや目的を明確に伝えるようにする。
		幼稚園・保育園及び中学校との連携を進め、指導の連続性を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・6年生が中学校を見学するとともに、小中教職員の情報交換や授業参観を実施した。 ・1年生は幼稚園・保育園児と交流会を実施し、幼保小職員の連絡会議や授業参観を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園・保育園との情報交換や引き継ぎ、中学校との交流の機会をより一層充実させ、異なる集団生活で児童が安心して過ごせるように必要な連携を密に図る。

学校関係者の評価	学校運営のまとめ
<ul style="list-style-type: none"> ・時代とともに授業が変わっていく。一方通行でなく、個・グループで学ぶことは素晴らしい。 ・先生方は大変だろう。パソコンの扱い方がすごい。 ・先生に負担がかかりすぎないようにしてほしい。 ・掲示物の剥がれや破れが気になる。一生懸命作っているので、展示の仕方についても気にかけてほしい。 ・児童が自分の意見を自由に話し、自信をもって過ごせている。 ・掃除が雑である。整理整頓ができていればケガが少なくなる。落ちていた物を拾う、さつと捨てる子どもたちになれば、よい大人になる。 ・計画委員会の児童の発表を聞いて、子どもたちがクリエイティブである。ついて来れない子もいると思うので、追い詰めないでほしい。 ・子どもが大人っぽくなっている。もっと自由でいいのに。発展的な取り組みがあると嬉しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、「児童の主体性」について教職員で方向性を確認しながら取り組んできた。主体的な学びにつながるような授業改善、また、様々な行事や教育活動における児童の主体をどう捉えるか、校内研究や研修を通して考えることができた。来年度は、具体的に「児童が主体的に学ぶ環境づくり」を進めていく。 ・様々な個性をもつ児童、保護者の様々な思いなど、多様なニーズに応えるべく、職員間で連携して対応する毎日であった。引き続き「学校のことは学校で解決」を目指し、保護者にも協力いただきながら子どもたちと向き合っていく。 ・経験年数の浅い教員が増えているため、計画的・継続的な研修だけでなく「気付いた時にOJT」を意識し、互いに教え合い高め合う組織づくりを進める。全職員が同じ方向を向き、一人一人が学校運営に携わっていることを意識しながら協力できる協働性を高めていきたい。 ・学校評価の結果から見える学校の強みとしては、安全という土台の上に、児童が友達と楽しく学び合える学級が築かれ、それが担任への信頼という形で保護者の皆様にも届いている点にある。課題としては、児童が「困った時に先生に相談できている」という実感が教職員側の認識より低く、保護者が相談窓口の不透明さを感じている点である。「気軽に相談できる」体制、雰囲気づくりに努めていく。また、保護者が必要とする情報の発信だけで